

Japanese Society for Day Care Treatment  
**日本デイケア学会**

**NEWS No. 13**

日本デイケア学会広報委員会  
2006年8月10日 発行  
日本デイケア学会事務局  
〒113-0033 東京都文京区本郷2-4-14  
株式会社キタ・メディア内  
TEL: 03-3813-6368  
FAX: 03-3813-6368  
E-mail: info@daycare.gr.jp  
URL: http://www.daycare.gr.jp

**保健所のデイケアの役割及び課題**

豊島区長崎健康相談所 荻澤健志

○ 保健所のデイケアの役割は地域によって異なるように思われます。社会資源の少ないところでは他の社会資源の補填的な役割を担いますし、社会資源が多い地域では他の社会資源との役割の違いについて明確化を求められます。特に、医療機関のデイケアとの違いについては問われる事が多くあります。ここでは、保健所デイケアが地域性を問わず役割とするものを整理したいと思います。

○ もともと保健所は、厚生省大臣官房障害保健福祉部長通知の「保健所及び市町村における精神保健福祉業務運営要領」の中で、「地域精神保健福祉業務(精神保健及び精神障害者福祉の業務)の中心的な行政機関として、精神保健福祉センター、福祉事務所、児童相談所、市町村、医療機関、精神障害者社会復帰施設等の諸機関及び当事者団体、事業所、教育機関等を含めた地域社会との緊密な連絡協調のもとに、入院中心のケアから地域社会でのケアに福祉の理念を加えつつ、精神障害者の早期治療の促進並びに精神障害者の社会復帰及び自立と社会経済活動への参加の促進を図るとともに、地域住民の精神的健康の保持増進を図るための諸活動を行うもの」とされています。

この業務の中での保健所デイケアの役割は、行政の精神障害者への直接的サービスとして、医療機関のデイケアほど医学的・治療的ではないものの、社会復帰及び自立と社会参加への支援をする事になります。平成17年7月の同上の通知で「保健所デイケアその他の訓練指導の実施」として、「作業指導、レクリエーション活動、創作活動、生活指導等を行い社会復帰の促進、地域における自立と社会参加の促進

のための訓練指導を行う。なお、この場合においては、医療機関のデイケアや社会復帰施設等の事業との関係に留意する。」とされています。

また、地域精神保健福祉業務の中には、障害者基本計画などの行政の障害者施策を進める業務があります。つまり、「リハビリテーション」及び「ノーマライゼーション」の理念により、障害者の社会への参加、参画に向けた施策の一層の推進を図ることがその役割となります。

障害者基本計画では、「障害の有無にかかわらず、相互に人格と個性を尊重し支え合う共生社会の理念の普及を図るとともに、障害及び障害者に関する国民理解を促進するため、幅広い国民の参加による啓発活動を強力に推進する。

21世紀に我が国が目指すべき社会は、障害の有無にかかわらず、国民誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合う共生社会とする必要がある。

○ 共生社会においては、障害者は、社会の対等な構成員として人権を尊重され、自己選択と自己決定の下に社会のあらゆる活動に参加、参画するとともに、社会の一員としてその責任を分担する。

○ 他方、障害者の社会への参加、参画を実質的なものとするためには、障害者の活動を制限し、社会への参加を制約している諸要因を除去するとともに障害者が自らの能力を最大限発揮し自己実現できるよう支援することが求められる。

人権が尊重され能力が発揮できる社会の実現を図ることは、少子高齢化の進展する我が国において、将来の活力を維持向上させる上でも重要である。

国民誰もが同等に参加、参画できる共生社会は、行政だけでなく企業、NPO等すべての社会構成員がその価値観を共有し、それぞれの役割と責任を自覚して主体的に取り組むことにより初めて実現できるものであり、国民一人一人の理解と協力を促進し、社会全体としてその具体化を着実に推進していくこ

とが重要である。」とされています。

各地方自治体では、障害者福祉計画を作成し、この障害者基本計画を推進しています。そうした「ノーマライゼーション」や「共生社会」の正しい理解を推進するため、地域社会への、そして行政内部への働きかけの手段として保健所デイケアを行っているとも言えるのです。

しかし、現実的には行政職員の中にも「ノーマライゼーション」を障害者がノーマライズされることのように理解している人が未だに多く見受けられます。精神保健福祉事業全般についても、事業評価には単純に参加者数や卒業者数、社会復帰率として就労者の率を用いようとする場合や費用対効果をそうした数字を用いて計算しようとするのが少なくないのが現状です。もちろん生活維持型デイケアへの評価は低く、「ノーマライゼーション」や「共生社会」の推進を評価の指標にする発想にも欠けています。

また、保健所デイケアには精神保健福祉相談員や保健師などによる相談事業をアシストする役割があります。個別の面接や訪問では見ることのできない当事者の集団での側面を知るための場であり、よりの確にアセスメントするために利用できる場でもあります。精神保健福祉相談員や保健師などが唯一さまざまな場面を共有する事のできる場であり、当事者をより自然に理解できるようになる場でもあります。こうした活動は、行政施策の立案のためのアンテナの役になるとも言えましょう。保健所デイケアには精神障害者への直接的支援の他にこうした行政施策全体へ働きかける役割があるのです。

以上のように、保健所デイケアの役割には、①精神障害者への直接的な支援としての社会復帰の促進や訓練指導の役割、②「ノーマライゼーション」「共生社会」の実現に向けての社会への働きかけの役割、③行政としての施策、業務へのアシストの役割、があるのです。

地域保健法によって保健所は都道府県から市町村へ移管され、予算の裏付けの無い保健所デイケアはその数が減りました。また、障害者自立支援法が施行され、精神保健福祉施策の地図が大きく変わろうとしている中で、今まで法的不備がゆえに様々な社会資源を生み出してきたこの分野の社会資源が、法の整備という名の下に規定されたかたちの枠組へ入れ込まれようとしています。規定の社会資源の枠に

入る場の無い保健所のデイケアのようなものは地図に無くなる方向に進みそうですし、この流れはすでに大きな流れなのかもしれません。

自治体によっては、保健所デイケアを一事業として地域活動支援センターへ委託する方向で考えているところもあります。それでも、精神障害者へのサービスの確保として委託という発想は評価されると思われれます。しかし、障害者福祉計画を行政内部から推進するという意味からは、行政からの直接的サービスの引き離しは行政内部へ働きかけるパワーの減退と言えるでしょうし、行政の中でノーマライゼーションがどのように捉えられているか疑問が残ります。

保健所デイケアの役割は地域精神保健福祉業務の一部を担っているという点で医療機関のデイケアと違う役割があります。しかし、医療機関のデイケアの増加から、保健所デイケアがその役割を終えているという発想が行政の内部で囁かれることが多いことは事実です。これは、行政の役割としての保健所デイケアを捉えられていないからなのかもしれませんし、残念ながら保健所デイケアの担当者がそういう役割を十分認識していなかったり、働きかけが不十分であったののかもしれません。また、保健所デイケアの活動を「ノーマライゼーション」や「共生社会」の実現のための活動として表現することが難しい事なのかもしれません。

このような状況の中で、保健所がどのように未来の地図に位置付けられるのでしょうか？長期的に考えた時に保健所デイケアがその地図の中には無くなっているかもしれません。しかし、この地図の太枠を作るのは精神保健福祉法や障害者自立支援法かもしれませんが、細部を作るのは精神保健福祉の現場のみなさんだと思います。そういう意味から、行政の役割としての地域精神保健福祉業務がどのように進められているかをみなさんがオブザブしていただくことが大切です。「ノーマライゼーション」や「共生社会」を実現するため、その地域に合った地図を行政中心ではなく、みなさんと共に作りたと思います。

## ようこそ熊本大会へ

この度、熊本にて日本デイケア学会第11回年次大会を開催させていただきますことを大変光栄に存じます。

今回は大会テーマを「心豊かな生活を支援するために～デイケアでの実践、そして挑戦」といたしました。

地域で暮らす精神障害者や高齢者の方々が、デイケア・デイサービスを通して真の福祉サービスの提供を受けられる為に、実践の場で今私どもが何をなすべきかを考え、語り合えることを目的としました。

医療・保健・福祉の脆弱が懸念される今日こそ、実践現場で連携し、パワーに代えて、さまざまな問題を乗り越えなければならないと思います。毎日の暮らしや療養の真っ直中にある障害者やお年寄りにどれだけ寄り添っていけるか、この学会でそれを学ぶことが出来れば、デイケアが優しく理解に満ちた空間になることでしょう。

本学会で、講演やセミナー・一般演題が充分検討されることを願っています。

市民公開講座も、テーマに「老人性認知症」を選び、講演や執筆等幅広く活躍中の橋幸夫氏を講師にお招きし、一般市民の理解と啓発に繋がたいと考えています。

今はなき三村孝一先生、佐々木勇之進先生に学会の成功を、運営に携わった多くの職員と共にご報告できれば、これに勝る喜びはありません。

初秋の熊本は、阿蘇も天草も黒川温泉に代表される湯の里も、皆様を心から歓迎してお迎えします。沢山のご参加をお願いしご挨拶と致します。

日本デイケア学会第11回年次大会  
大会長 藤 本 敏 雄



# 日本デイケア学会第11回年次大会

大会テーマ 『心豊かな生活を支援するために  
～デイケアでの実践、そして挑戦～』

大会長 藤本敏雄（日本精神科病院協会 熊本県支部長）

会 期 平成18年9月21日(木)・22日(金)・23日(土・祝)

学 会 : 平成18年9月21日(木)・22日(金)

ワークショップ・市民公開講座: 平成18年9月23日(土・祝)

会 場 熊本県立劇場

〒862-0971 熊本市大江2丁目7-1

TEL: 096-363-2233 / FAX: 096-371-5246

JR熊本駅より タクシー約15分 熊本交通センターより タクシー約10分

熊本空港より タクシー約30分 高速道路 熊本インターチェンジより約20分

## 日本デイケア学会 第11回年次大会 第1日目

平成18年9月21日(木)

### 第1会場 コンサートホール

開会式

9:30~10:00

記念講演Ⅰ

「改めてデイケアの意義を問うー学会新しい10年の出発に際して」

【講師】柏木 昭 【座長】宮川 洸平

10:00~10:40

記念講演Ⅱ

「障害者自立支援法と医療保健福祉施策の動向について」

【講師】鷲見 学 【座長】藤本 敏雄

11:00~12:30

シンポジウムⅠ「高齢者」

「新たな介護予防における通所サービスの現状と課題」

【シンポジスト】角町 正勝 中村 雅巳 渡辺 純子 那須 久史 堀田 公子 【座長】堀尾 慎彌 鴻江 圭子

13:10~16:10

| 第2会場<br>演劇ホール                    | 第3会場<br>大会議室                                        | 第4会場<br>音楽リハーサル室                               | 第5会場<br>演劇リハーサル室                                               | 1F<br>モール会場                                                               |
|----------------------------------|-----------------------------------------------------|------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 一般演題(口述)<br>【精神科】12演題<br>プログラム実践 | 一般演題(口述)<br>【精神科】12演題<br>運営スタッフ<br>取り組み・<br>個別アプローチ | 一般演題(口述)<br>【精神科】12演題<br>機能分化、目的別・<br>就労支援・その他 | 一般演題(口述)<br>【精神科】12演題<br>身体管理、<br>服薬・評価、<br>調査・家族会、<br>家族教室その他 | 一般演題(ポスター)<br>【精神科】21演題<br>運営・プログラム実践・<br>機能分化・調査等<br>4パートのパネル<br>に分かれて発表 |
| 13:10~16:30                      | 13:10~16:30                                         | 13:10~16:30                                    | 13:10~16:30                                                    | 16:30~17:30                                                               |

懇親会

熊本ホテルキャッスル

18:30~

# 日本デイケア学会 第11回年次大会 第2日目

平成18年9月22日(金)

## 第1会場 コンサートホール

### シンポジウムⅡ「精神科」

「自立支援法について一施行後どう変わったのか」

【シンポジスト】上ノ山 一寛 赤星 香世子 徳山 大英 宮部 真弥子 吉浜 文洋 【座長】樺島 敬吉  
9:30~12:30

### 精神科セミナー

「階層化する社会と精神医療」

【講師】春木 進 【座長】犬飼 邦明  
13:10~14:30

### 特別講演

「音楽を通しての心のふれあい」

【講師】チャーリー永谷 【座長】藤本 敏雄  
14:50~16:20

### 学会総会

16:20~16:40

### 閉会式

16:40~17:00

## 第2会場 演劇ホール

### 高齢者セミナー

「高齢者における在宅ケアと自立支援」

【講師】橋本 泰子 【座長】堀尾 慎彌  
13:10~14:30

### 第2会場 演劇ホール

一般演題(口述)  
【高齢者】12演題  
運営 スタッフ  
取り組み・認知症・  
その他  
9:30~12:30

### 第3会場 大会議室

一般演題(口述)  
【高齢者】12演題  
リハビリ訓練・  
地域交流、連携・  
その他  
9:30~12:30

### 第4会場 音楽リハーサル室

一般演題(口述)  
【精神科】12演題  
プログラム実践・  
心理教育・SST等  
9:30~12:30



# 日本デイケア学会 第11回年次大会 第3日目

平成18年9月23日(土・祝)

| 第2会場<br>演劇ホール                                                          | 第3会場<br>大会議室                                                                                                                        | 第4会場<br>音楽リハーサル室                                            | 第5会場<br>演劇リハーサル室                                                        |
|------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| 精神科ワークショップ<br>デイケアプログラムの<br>展開方法<br>【講師】石田 重信<br>【座長】前田 真弓             | 高齢者ワークショップ<br>サービスの現場から語る<br>～高齢者に対する自立の<br>ためのデイケア・デイサービス<br>の実践と問題点～<br>【講師】佐藤 智洋<br>山田 英司<br>飯干 久美<br>島村 明子<br>【座長】米満 淑恵<br>林 邦雄 | 精神科ワークショップ<br>思春期デイケアの実践<br>【講師】横田 周三<br>植村 照子<br>【座長】上妻 明彦 | 精神科ワークショップ<br>当事者が語る当事者の<br>エンパワーメント<br>【講師】姫井 康隆<br>徳山 大英<br>【座長】岡田 洋一 |
| 10:00～12:00                                                            | 10:00～12:00                                                                                                                         | 10:00～12:00                                                 | 10:00～12:00                                                             |
| 演劇ホール                                                                  |                                                                                                                                     |                                                             |                                                                         |
| 市民公開講座<br>新刊 「夢の架け橋」より 介護・家族・人生とは<br>【講師】橋 幸夫 【座長】犬飼 邦明<br>13:00～14:30 |                                                                                                                                     |                                                             |                                                                         |

事前登録は8月31日まで延長しました。未だ間に合いますので是非ご参加下さい。

## 日本デイケア学会第11回年次大会事務局だより

猛暑の候 皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

熊本は連日35度を超す暑さですが、実行委員は本来の職務の傍ら、学会運営の仕事に忙殺されています。現在、一人でも多く参加登録をしていただくように、各関係団体に働きかけているところです。採算ベースにはまだ届かない登録者数に、汗は冷や汗となっていたり落ちています。会員の皆様には誘い合わせの上、是非初秋の熊本へお出かけいただきたいと思います。

「抄録集」の編集作業にも取りかかっていますが、見やすさを基本に地方色も取り入れ、荷物になっても帰路に捨てられないように、心を込めて編集しています。事前登録された方には前もってお送りできるよう急ピッチで作業しています。

「充実した学会運営」を合い言葉に、皆様のご来熊を心よりお待ち申し上げます。

2006年8月 日本デイケア学会第11回年次大会事務局

## デイケア 西から東から、北から南から…

### ある日のカンファレンスから

札幌市 デイケア・クリニックほっとステーション 長谷川直実

良い会議・カンファレンスのあり方とはどんなものなのだろうか。当院でも毎月様々な会議が開かれる。ナースミーティング、PSW会議、どんぐり会議（どんぐりとは「大通公園どんぐりの家」の略で、宅老・託児所であり、デイケアの就労支援プログラムでホームヘルパー2級資格を取得したメンバーの一部がスタッフとともに就労している）、毎朝夕のミーティング、SST会議、症例検討会、水曜朝の勉強会（スタッフが担当を持ち回り）、最終水曜夕方勉強会（主に対処法について）、毎週金曜日のカンファレンス、そのほか行事や何かのトラブル対応のための会議など数多く会議があるわけで、それだけに有効な会議の時間の使い方、進め方、意見の出やすい会議の雰囲気については考えさせられる。

先日もあるカンファレンスで、20代の統合失調症の男性メンバーAさんに関して話し合いが持たれた。病識が乏しく、一人暮らしで服薬がきちんとできていないこと、スタッフの中で若いOTに恋愛感情を抱き、つきまとっていること、近くに住む親に対して反抗的・拒絶的態度をとり、親を悩ませていることなどがまず話題として取り上げられた。あるスタッフは、ソフトボールの対抗試合に出るメンバーたちがデイルームで筋肉トレーニングをしているそばで、大柄な彼がバットを竹刀にみだてて素振りをしたがっていたと発言した。他のスタッフからは、畑作業に出た方がいいが、力が余ってトマトの苗を抜いたり、ボールを折ったり、スコップでほかのメンバーに土をかけて叱責されたエピソードについて語られた。またしきりと件のOTの周りを警護しようとしたら、「大事な人を守るんだ」「男はいざというとき…」などどとつぶやいていることが看護師から報告された。

このようなエピソード、背景から病状が不安定ながらも彼が、何か「男気」を駆り立てるような、身を捧げるような大義名分を欲しているのではないかという推測が話し合われた。そして次に「病状を悪化させず」「彼の男気を大事にし」「デイケアでできること」について何があるかが話し合われたのである。

「力仕事を頼む」（備品修理、硬く閉めたピンの蓋開けなど）という案がまずでた。しかし、継続性がないとの理由でボツになった。次に「よさこいソーラン祭り」の期間に毎年開催されるバザーに餅つきを行い、彼に担当してもらってはという案が出た。餅つきにまつわる自身の思い出を語りだすスタッフ、椅子の上に立ち上がって餅つきの動作を始めるスタ

ッフもあり、会議は一時猿山のような賑わいをみせた。結局、餅つきは、彼が若いのに腰が悪いこと、杵を振り上げたときにデイルームの蛍光灯を破壊する恐れがあることも判明し却下された。

次に出た案はソフトボール対抗試合、スポーツ大会のための応援団を結成し、彼に団長になってもらうという提案である。これなら「誰かのため」という大義名分がある上に、彼の好きな剣道の胴着を着用することも叶えられて、“男を上げる”絶好の機会ともなりうる。そこで、さっそく応援団の結成が決定し、担当のスタッフが選ばれる運びになった。

この会議ではさまざまな「脱線」をしたものの、当事者のリソース（持ち味）を出来るだけ引き出せるような方向で話し合いが展開した。このような話題の展開はスタッフの精神的な疲弊感を募らせることも少ないと言える。しかしせっかくの会議で活発に討議された内容や結論であっても、実際の臨床の場に成果となって活かされなければその意義も半減してしまう。会議は、言語を媒体としてスタッフが臨床経験を深化させていく絶好の機会でもあるが、やはり臨床へのフィードバックが第一義であることを忘れてはならない。

あまりにも日常的に参加しているがために、ついその基本的な意義を忘れがちな会議についての雑感を思いつくままに書き綴ってみた。

### こどものデイケアの変遷

茨城 神経科クリニックこどもの園 院長 田上洋子

平成2年に始めたこどものためのデイケアも、16年経って振り返って見る必要がある。

当初は登校拒否児の行き場がなく、「家の中にも閉じこめられないし、保健室に行ったら先生が教室に入れようとするし、映画はお金がないし、行く所が無いんだよ。」とこどもから訴えられていた。「今制服を着て、家を出たけどどこも行く所がないんだ、どうしよう先生。」と本人から電話を貰って、こっちが慌てて「そうね...じゃあ私の所に来るか?」「でもね先生の所は格子窓があるじゃん、あれはいやなんだ。」「うーん、そうだね...困ったね。」とひたすら困っていた。

そんなこども達の気持ちに押されて、小規模のデイケアを作り、とりあえずこどもの居場所は作った。まず、こどもにとって居心地が良い所にしようと心をくだいた。それまで禁止や規制が強い中をアップアップしていたこどもに一切の規制を取り外す、「ここでゆっくり休んで、やりたい事が見つかった



ら、一緒に出来るようにスタッフが手伝うよ。」とこどもに告げた。

スタッフ達が居心地良く楽しくしている場所をと心がけた。スタッフが楽しいこと、やりたいこと、をこどもの前でして、楽しんで見ましよう、色彩遊び、合唱、お話を聴く時間、遠足、スポーツ、作って食べよう（調理実習；将来の独り立ちに備え、最低のものは自分で作って食べる事が出来るようになってもらいましょう）学習（解った時の喜びを始めて体験した時の喜びの表情は格別である）等で大人が楽しく仲良くやろうよ、そしたらこどもと一緒に楽しむかな？...が最初の一步だった。

「好きな事ばかりやって、いやな事はしないんじや、学校なんかに来る訳がない。」「こどもの園から来た子はわがままで困る。」と言う声が聞こえてきたが自由な場所があっても良いんじゃないかと構わず続けた。

心理的な原因で不登校になったこどもは、ゆっくり休んでいる間にみるみる元気になって、自分から学校に帰って言った。家庭の問題、親子の問題が複雑に絡んでいるこどもは親に対する指導、家族関係の再構築が必要であった。

10年位前から自治体の教育委員会が主体のこどもの居場所作りが盛んになって、こどもの居場所が各

市町村に出来た。それ以来、学校の先生から登校拒否の相談が全くなかった。

最近の傾向は自治体の「適応指導教室」から紹介されたこども、担任が特殊な知的障害を疑うこども、家族が精神病を疑って連れて来るこどもが多い。

特殊な知的障害は生涯にわたって支えを必要とする。統合失調症の一部はどんどん退行し、いつも保護を求める。このタイプの利用者が多くなっている。そして大人の園になってしまう。こどもの園の少子高齢化の問題である。

この16年で最も目立つ変わったことは、大人の保護力の低下だと思われる。この子の事を親に託せない。教師に期待出来ない。地域の誰にも頼めない。困った状況である。その中で唯一頑張っているのがここ牛久市では保健センターの保健師である。

園の中では人気のスタッフに利用者が集まる。皆の問題を独りで抱え込まないように常に気を配る事が責任者に課された課題であろう。

とりあえず始めたデイケアの問題が最近やっと見え出した気がする。

## 入会申込

日本デイケア学会は、デイケアの発展と向上を意図し、学術研究の促進と会員相互の交流の推進を目的に、平成8年に研究会として設立され、その後平成10年に学会に名称変更され、現在約800名の会員があり、精神科デイケア、老人デイケア・デイサービスの分野で業務に従事している方が大部分を占めております。

1. 入会申込書 入会申込書、入会案内、会則、および郵便振込用紙をお送りいたしますので、下記事務局までご連絡ください。

2. 会費および年会費

正会員：入会金1,000円＋年会費8,000円＝9,000円 団体会員：3名までは、入会金5,000円＋年会費20,000円＝25,000円  
(3名を越えるときは、1名につき年会費5,000円を加算してください)

3. 資格(会則の一部を引用します)

正会員は、医療、保健、福祉、教育等の分野において、デイケアおよび関連業務に従事または従事しようとする個人で、本会の目的に賛同し会費を納めるものとする。

団体会員は、デイケア業務をおこなう団体、施設、法人等で、本会の目的に賛同し会費を納めるものとし、一定数のデイケア従事者を登録することができる。

4. 事務局 〒113-0033 東京都文京区本郷2-4-14 株式会社キタ・メディア内 日本デイケア学会事務局  
TEL&FAX: 03-3813-6368 e-mail: info@daycare.gr.jp URL: http://www.daycare.gr.jp

キリトリ線(ご記入いただき、郵送あるいはFAXで事務局までお送り下さい。)

### 入会申込書(正会員用)

申込日 平成 年 月 日

|            |                |    |     |      |          |   |   |   |
|------------|----------------|----|-----|------|----------|---|---|---|
| 氏名         | フリガナ           | 性別 | 男・女 | 生年月日 | T・S<br>H | 年 | 月 | 日 |
| 職種         | 所属先名称<br>(勤務先) |    |     |      |          |   |   |   |
| 所属先<br>所在地 | 〒              |    |     | 電話番号 | ( )      |   |   |   |